



## 2020年9月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2020年8月13日

上場会社名 日本フォームサービス株式会社  
 コード番号 7869 URL <http://www.forvice.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 齋藤太誉  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 土肥健一  
 四半期報告書提出予定日 2020年8月14日  
 配当支払開始予定日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東  
 TEL 03-3636-0011

(百万円未満切捨て)

### 1. 2020年9月期第3四半期の連結業績(2019年10月1日～2020年6月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年9月期第3四半期	2,152	5.4	36	68.3	76	19.7	54	
2019年9月期第3四半期	2,275		113		95		95	

(注) 包括利益 2020年9月期第3四半期 54百万円 ( %) 2019年9月期第3四半期 97百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年9月期第3四半期	138.02	
2019年9月期第3四半期	240.21	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年9月期第3四半期	3,452	1,943	56.3
2019年9月期	3,631	1,889	52.0

(参考) 自己資本 2020年9月期第3四半期 1,943百万円 2019年9月期 1,889百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年9月期		0.00		0.00	0.00
2020年9月期		0.00			
2020年9月期(予想)				50.00	50.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2020年9月期の連結業績予想(2019年10月1日～2020年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,413	9.1	85	31.6	95	16.5	57		143.14

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- |                    |     |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更         | : 無 |
| 会計上の見積りの変更         | : 無 |
| 修正再表示              | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年9月期3Q	402,000 株	2019年9月期	402,000 株
期末自己株式数	2020年9月期3Q	3,787 株	2019年9月期	3,787 株
期中平均株式数(四半期累計)	2020年9月期3Q	398,213 株	2019年9月期3Q	398,218 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(セグメント情報等)	8
(追加情報)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（2019年10月1日から2020年6月30日まで）におけるわが国経済は、政府の経済対策・金融政策等の効果を背景として雇用や賃金の増加により景気は緩やかな回復が続くことが期待され、輸出や生産活動に引き続き弱さが見られたものの、雇用・所得環境の改善に支えられ、当事業年度は緩やかな回復基調にあるものと判断されていました。しかし、本年に入り、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により景気の減速懸念が急速に高まり、先行き不透明な状況となりました。いまだ終息の兆しが見えないなか、景気後退への警戒感から、国内外とも景気の先行きは不透明感を増している状況にあります。

このような状況の下で、当社グループの売上高は21億5千2百万円（前年同期比1億2千3百万円の減少）、営業利益3千6百万円（前年同期比7千7百万円の減少）、経常利益7千6百万円（前年同期比1千8百万円の減少）、親会社株主に帰属する四半期純利益は、5千4百万円（前年同期比1億5千万円の増加）となりました。

セグメント別の業績を示すと、次のとおりであります。

#### ①製造事業

AV関連製品は、好調であったデジタルサイネージ関連製品及びアーム関連製品において、新型コロナウイルス感染症の世界的流行と、それを受けて『東京2020オリンピック』が延期されたことで、工事案件及びオリンピック関連案件の延期による影響がグループ会社全体に発生しております。但し、ラック関連製品は、5Gの基地局増設に向けた実証、また、新型コロナウイルス感染症拡大防止策としてリモートワークが増えたことや、自粛期間中における各種webサービス利用者が急増したことにより、通信設備投資を行なう企業からの受注案件が増加しました。このような状況の下で、当初予定の売上高を確保するまでには至りませんでした。AV関連製品の工事案件延期による落ち込み分をカバーしております。

一方、利益面につきましては、事業戦略の一環として、購買部門の強化を図り、納入業者の選定、コストダウンを実施、また、千葉工場に導入した設備が稼働したことにより、生産性が向上し原価低減につながりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、計画した利益を確保するまでには至りませんでした。

以上の結果、製造事業の売上高は16億4千5百万円（前年同期比1億1千万円の減少）、セグメント利益（経常利益）は1億8百万円（前年同期比6百万円の減少）となりました。

#### ②介護事業

在宅介護サービスにおきましては、新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が2020年4月7日に政府より発令され、同5月25日に全面解除されるまでの期間については、通所介護利用者が激減、また、訪問介護におきましても、同居家族が在宅勤務になり感染防止の面からも介護補助の利用者が減少したことで、売上が一時的に落ち込みました。しかしながら、全面解除後は、利用者の戻りが予想より早かったこともあり、当初予定は未達ではありますが売上高2億4千6百万円（前年同期比1千1百万円の減少）となりました。なお、認知症対応型共同生活介護（江戸川区松江・杉並区松庵）は、外部との接触を完全にシャットアウトする等の感染症予防対策を行なった結果、新型コロナウイルス感染症の影響は表れなかったものの、売上高は2億6千万円（前年同期比1百万円の減少）となり、当初計画の売上高を確保することができませんでした。一方、利益面につきましては、売上高の減少に比例し、セグメント損失（経常損失）は3千1百万円（前年同期比1千2百万円の悪化）となりました。

以上の結果、介護事業の売上高は5億6百万円（前年同期比1千2百万円の減少）、セグメント損失（経常損失）は3千1百万円（前年同期比1千2百万円の悪化）となりました。

なお、当第1四半期連結累計期間より、報告セグメントの区分表示を変更しております。詳細は、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (セグメント情報等) セグメント情報」の「Ⅱ 当第3四半期連結累計期間 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報 (注) 2」をご参照ください。

## (2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の資産の合計は、34億5千2百万円となり、前連結会計年度末に比べて1億7千9百万円減少いたしました。主な要因は、現金及び預金が1億6千万円増加したことに対して、売上債権が1億5千万円減少、土地・建物等売却による有形固定資産が1億7千9百万円減少したことによるものであります。

当第3四半期連結会計期間末の負債の合計は、15億8百万円となり、前連結会計年度末に比べて2億3千3百万円減少いたしました。主な要因は、借入金が8千8百万円減少、買掛金が2千万円減少、その他流動負債が1億円減少したことによるものであります。

当第3四半期連結会計期間末の純資産の合計は、19億4千3百万円となり、前連結会計年度末に比べて5千4百万円増加いたしました。主な要因は、四半期純利益（純資産の増加）5千4百万円によるものであります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第3四半期連結期間の売上高は新型コロナウイルスの影響により予想よりも減少しましたが、2020年6月以降、製品出荷に回復基調が見られること、及び、第2四半期連結累計期間で営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期当期純利益で従来予想を上回る利益となったことから、当感染症の感染拡大による当社グループ連結業績は現時点で重大な影響は出ておらず、2020年9月期連結業績予想を修正する必要はないと考えております。

なお、今後の新型コロナウイルスの感染拡大による影響の長期化、販売の状況をふまえて、修正が必要であると判断した場合には、速やかに公表いたします。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	142,809	303,285
受取手形及び売掛金	603,500	452,589
商品及び製品	28,633	37,671
仕掛品	15,020	10,496
原材料	153,665	158,011
その他	30,582	24,537
貸倒引当金	△250	△3,697
流動資産合計	973,962	982,894
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	753,741	724,119
機械装置及び運搬具(純額)	158,451	138,946
土地	1,611,087	1,490,086
リース資産(純額)	44,544	35,919
その他(純額)	4,133	3,530
有形固定資産合計	2,571,958	2,392,602
無形固定資産		
投資その他の資産	12,030	26,332
投資有価証券	9,836	9,746
繰延税金資産	4,232	5,986
その他	80,737	63,059
貸倒引当金	△21,077	△27,984
投資その他の資産合計	73,728	50,808
固定資産合計	2,657,717	2,469,743
資産合計	3,631,679	3,452,638

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	114,072	94,055
短期借入金	1,073,500	1,002,500
1年内返済予定の長期借入金	35,000	3,996
リース債務	15,120	4,655
未払法人税等	29,704	32,214
賞与引当金	17,370	30,576
事業構造改善引当金	28,050	14,815
その他	316,790	216,655
流動負債合計	1,629,608	1,399,468
固定負債		
長期借入金	-	13,340
リース債務	39,208	39,177
役員退職慰労引当金	2,646	6,548
繰延税金負債	37,501	23,286
長期末払金	26,886	18,586
その他	6,392	8,571
固定負債合計	112,635	109,510
負債合計	1,742,243	1,508,979
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	395,950	395,950
資本剰余金	230,000	230,000
利益剰余金	1,277,586	1,332,547
自己株式	△15,524	△15,524
株主資本合計	1,888,012	1,942,973
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,423	685
その他の包括利益累計額合計	1,423	685
純資産合計	1,889,436	1,943,658
負債純資産合計	3,631,679	3,452,638

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2018年10月1日 至2019年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年10月1日 至2020年6月30日)
売上高	2,275,459	2,152,394
売上原価	1,535,721	1,529,096
売上総利益	739,738	623,297
販売費及び一般管理費	625,896	587,225
営業利益	113,841	36,071
営業外収益		
受取利息	7	1
受取配当金	212	234
作業くず売却益	3,622	2,731
補助金収入	3,531	15,665
その他	8,758	35,581
営業外収益合計	16,131	54,213
営業外費用		
支払利息	6,689	12,203
支払手数料	1,075	1,200
手形売却損	627	409
貸倒引当金繰入額	6,143	-
前期損益修正損益	20,015	-
その他	164	18
営業外費用合計	34,716	13,832
経常利益	95,256	76,453
特別利益		
固定資産売却益	355	1,501
投資有価証券売却益	546	-
課徴金納付差額	-	9,000
特別利益合計	901	10,501
特別損失		
固定資産売却損	-	3,079
固定資産除却損	-	449
減損損失	-	14,000
過年度決算訂正関連費用	186,537	-
特別損失合計	186,537	17,528
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△90,378	69,426
法人税、住民税及び事業税	11,550	30,106
法人税等調整額	△6,273	△15,641
法人税等合計	5,276	14,465
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△95,655	54,960
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△95,655	54,960



四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年10月1日 至 2019年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年10月1日 至 2020年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△95,655	54,960
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,453	△738
その他の包括利益合計	△1,453	△738
四半期包括利益	△97,108	54,222
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△97,108	54,222

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## I 前第3四半期連結累計期間(自 2018年10月1日 至 2019年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		四半期連結損益計算書 計上額 (注)
	製造事業	介護事業	
売上高			
外部顧客への売上高	1,755,567	519,892	2,275,459
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	1,755,567	519,892	2,275,459
セグメント利益又は 損失(△)	114,478	△19,221	95,256

(注) セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の経常利益と一致しております。

## II 当第3四半期連結累計期間(自 2019年10月1日 至 2020年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		四半期連結損益計算書 計上額 (注)
	製造事業	介護事業	
売上高			
外部顧客への売上高	1,645,407	506,986	2,152,394
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	1,645,407	506,986	2,152,394
セグメント利益又は 損失(△)	108,325	△31,872	76,453

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の経常利益と一致しております。

2. 当第1四半期連結累計期間より、従来の「函物及び機械設備関連事業」から「製造事業」並びに「介護関連事業」から「介護事業」へ製品及びサービスの名称を変更しております。この名称変更による製品及びサービスごとの情報への影響はありません。また、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は変更後の報告セグメントの名称で記載しております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

各報告セグメントに配分していない全社資産において、遊休資産の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上は、当第3四半期連結累計期間において1千4百万円であります。

(追加情報)

(営業外費用「前期損益修正損益」)

前第3四半期連結累計期間(自 2018年10月1日 至 2019年6月30日)

当第3四半期に発見した、過去の連結財務諸表における誤謬であります。

内訳は以下の通りであります。

過年度売上の修正	18,262千円
過年度仕入高の修正	13,763千円
過年度減価償却費の修正	13,954千円
過年度貸倒引当金繰入の修正	13,905千円
期首たな卸資産棚卸高の修正	12,159千円
過年度棚卸資産評価損の修正	7,435千円
過年度法人税の修正	6,114千円
過年度役員退職慰労引当金繰入の修正(△は収益)	△20,742千円
過年度賃借料の修正(同上)	△10,551千円
過年度の棚卸資産未実現利益調整の修正(同上)	△5,093千円
過年度保険積立の修正(同上)	△32,133千円
その他	2,941千円
合 計	<u>20,015千円</u>

当第3四半期連結累計期間(自 2019年10月1日 至 2020年6月30日)

該当事項はありません。

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う会計上の見積りについて)

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、2020年4月7日に政府より緊急事態宣言が発令され、同5月25日には全面解除となりました。緊急事態宣言下では、製造事業の製造現場は概ね通常通り稼働しているものの、納期延長の要請等の事象が発生しております。これにより2020年4月の製品出荷については前年同期比47%減少、2020年5月の製品出荷については前年同期比23%減少、2020年6月の製品出荷については前年同期比19%減少するなど売上高の減少リスクが生じております。

当社は売上高及び営業利益について、2020年6月からは回復基調にあるものの、売上高減少は少なくとも2021年9月期まで当影響が継続するとの仮定を置いて会計上の見積り(主として、継続企業の前提に係る資金繰り、固定資産の減損に係る部門別損益、繰延税金資産の回収可能性等)を実施しております。

なお、当該見積りは現時点の最善の見積りであるものの、新型コロナウイルス感染症拡大による経済活動への影響については不確定要素が多く、上記の過程に状況変化が生じた場合には、当社グループの財政状態及び経営成績に少なからず影響を及ぼす可能性があります。